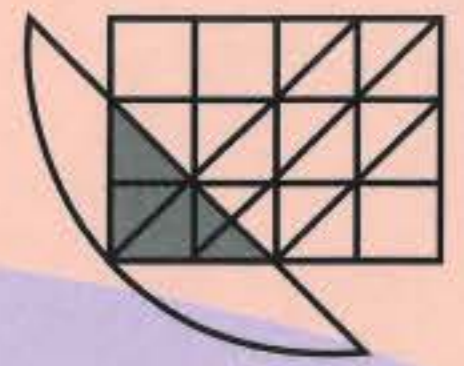


博物館だより



和歌山県立博物館

WAKAYAMA PREFECTURAL MUSEUM

No.17

2012.3

博
物
館
進
化
中
!

展示を通じて人と資料と博物館をつなぐ。
誰もが楽しんで利用していただくため、
変化する博物館をご紹介します。

和歌山県立博物館では、平成22年度から県立和歌山工業高校や県立和歌山盲学校と連携して、視覚に障害のある方が触って学べるレプリカや触って読む図録の作製を行っています。
平成22年度は紀州東照宮の祭礼である和歌祭の面掛行列で使用してきた古

い仮面のレプリカと、図録『仮面の世界へご招待ーさわって学ぶ和歌祭ー』を作製し、ロビーで常時展示しています（平成22年度文化庁美術館・歴史博物館活動基盤整備支援事業）。
そして平成23年度は常設展示の内容と関連させて、銅鐸や埴輪、瓦、仏



レプリカを作製してくれた和工生たち

像など7種類のレプリカと、図録『きのくにの祈りーさわって学ぶ祈りのかたちー』を作製し、展示室内に設置しました。あわせてLEDライトによる展示室内通路の照度環境の改善も行いました（平成23年度文化庁文化遺産を活かした観光振興・地域活性化事業）。

文化財のレーザー計測の様子



これは博物館のユニバーサルデザイン化を推進するため、最も情報が届きにくい人へと向けて展示を構築することで、見える人も、見えない人も、見えにくい人も、ともに博物館を楽しんで利用していただくための取り組みです。

レプリカ制作に協力してくれたのは、県立和歌山工業高校産業デザイン科の生徒のみなさん。実習の一環として行った作業は、文化財を三次元デジタルでレーザー計測し、得たデータをパソコンで手作業で修正して、できあがった立体データを3Dプリンターを用いてプラスチックで成形するというものです。和歌山県ゆかりの文化財のレプリカを、丈夫な素材で比較的安価に作ることで、博物館での触れるレプリカにぴったりの技術です。
博物館ではこうした取り組みの他にも、お客様が快適に利用していただくために、展示や広報にさまざまな工夫を行っています。そんな工夫のいくつかをご紹介します。

和歌山県立博物館の常設展では、三万年にわたる和歌山県の歴史をわかりやすく展示しています。今年度から触れるレプリカを設置し、通路の照度も明るくしています。

常設展のほかに、和歌山県に関する歴史と文化を様々な視点から紹介する特別展と企画展を年間に8回ほど開催しています。こうした展覧会を開催し続けるために博物館では、日々の調査研究活動を通じて県内各自治体や所蔵者と協力関係を築き、また2万点を超える館藏品や寄託品の有効活用を図っています。

展示では「かんたん解説」など分かりやすい解説パネルの設置を心がけ、また専用機器による音声ガイドを学芸員自身が毎回作製し、全ての展覧会で用意しています。



新たに作製した触れるレプリカ7種類。きのくにの祈りがテーマです。点字パネルや触って読む図録もあります。

スポット展示

博物館の2階には、高野山町石道や熊野古道についての屋外展示やパネル展示、また文化財に関わる書籍を配架した学習室があります。この2階で、平成22年度から設けている新しい展示スペースがスポット展示です。独立した大きなケースに、毎回数点の資料を館藏品を中心にセレクトして展示しています。平成22年度は「季節のしつらい」、平成23年度は「ちよつとだけ《江戸時代》を知らう」をテーマに展示し、平成24年度は「文化財のウラ、見ませんか?」がテーマです。

約1万点の館藏品は、常設展・特別展・企画展だけでは公開の機会が限られますので、こうした展示を通じて、博物館のコレクションをご紹介します。



博物館の多様なコレクション。収蔵庫で眠らせず、その魅力を広く共有したい。学芸員の資料を見る視点にもご注目。

マイミュージアムギャラリー

博物館エントランスホールのミュージアムショップの脇、コーヒーでほっと一息つける休憩所で開催している小さな展示がマイミュージアムギャラリーです。ここではだれもが持っている思い出の品を、その思い出とともに展示しています。

昔遊んだおもちゃ、海岸で拾った石、お正月に使っている重箱など、一見なにげないものでも、それにまつわる思い出とともに見ると見え方が変わり、かけがえのないものであることに気づきます。誰でも出品できる市民参加型のこの展示にぜひ参加してみてください。高価な物、珍しい物である必要はありません。学芸員が思い出を取材して、ともに展示を作り上げ、思い出が光り輝くその瞬間を迎えたいと思います。



第28回展示「柄鏡と吉祥文」で展示した資料。展示してみたい!という方は、お気軽にお問い合わせ下さい。

広がる博物館の利用

博物館の利用者は、実際に施設に足をお運びいただいた方だけでなくありません。例えば電話などで頂いた和歌山の歴史に関するお問い合わせにお答えした写真の貸し出しも頻繁に行っています。

博物館のホームページに訪問してくださったお客様もまた利用者です。そこでは展覧会やイベントの情報提供にとどまらず、ブログ形式の「和歌山県立博物館ニュース」では博物館の日々の活動をリアルタイムにお知らせしたり、和歌山の歴史に関するコラムを頻繁に掲載しています。ツイッターによる細かな情報提供も行い、博物館を身近に感じていただけるよう、日々充実を図っています。更なる進化をご期待下さい。



ホームページで様々な情報にアクセス!
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp/>

特別展

災害と文化財

—歴史を語る文化財の保全—

4月28日(土)～6月3日(日)

昨年九月、西日本を襲った台風一二号は、和歌山県内にも甚大な被害をもたらしました。こうした災害は尊い人命を奪うだけでなく、先人たちの生きた証である文化財も奪います。

この特別展では、まず先人たちが残してくれた文化財から、過去の災害を振り返ります。そのうえで、豪雨に伴う水害、近い将来起こるとされる南海地震・東南海地震とそれに伴う津波、こうした災害に対して、地域の文化財をどのようにして守ればいいのか、これまで行われた文化財のレスキュー活動から考えてみたいと思います。



津波警告板 日神社蔵 (和歌山県指定有形民俗文化財)

特別展

よみがえる軍艦エルトゥール号の記憶

9月8日(土)～10月11日(木)

一八九〇(明治二三)年に、串本町大島沖でトルコの軍艦・エルトゥール号は、台風により遭難しました。その際に行われた地元住民の献身的な救助活動は、現在まで語り継がれ、両国の絆の象徴となっています。

この特別展では、近年の水中発掘調査により、エルトゥール号から引き揚げられた遺物を展示するとともに、引き揚げ作業・保存処理・復元作業など、水中考古学に関わる様々な活動を紹介します。

特別展

高野山麓 祈りのかたち

10月20日(土)～12月2日(日)

平成16年に「紀伊山地の霊場と参詣道」として世界遺産に登録された高野山。その宗教活動を支えていたのが、山麓の村々です。高野山の鎮守の神々は村々に勧請され、また拠点寺院が建てられて、山上山下が関わり合いながら積み重ねられた人々の信仰は、仏像や仏画、仮面、祭礼、行事など、さまざまな祈りのかたちとして今日に伝わっています。

また長峰山脈など高野山を取り巻く峯々には、高野山と関わる山岳信仰の拠点がかつてあり、その痕跡をのびせる文化財が山麓の村々に受け継がれ、今日に伝えられています。この特別展では高野山を支えた高野山麓の人々の姿を、祈りの心を伝える文化財を通じて浮かび上がらせ、世界遺産・高野山とその文化圏の知られざる新たな魅力に迫ります。

菩薩形坐像 林ヶ峰観音寺蔵



菩薩形坐像 大日講蔵



菩薩形立像 (阿弥陀如来像および二十五菩薩像のうち) 法福寺蔵 (和歌山県指定文化財)



企画展	企画展	企画展	特別展	特別展	子ども向け企画展	企画展	特別展	企画展	常設展
文化財受難の時代 —いかに守るか—	熊野水軍	和歌の浦の風景	高野山麓 祈りのかたち	よみがえる軍艦・ エルトゥールル号の記憶	きのくにのむかしばなし	箱と包みを開いてみれば —文化財の収納法—	災害と文化財 —歴史を語る 文化財の保全—	たたかう村	きのくにの歩み —人々の生活と文化—
3月9日～4月21日	1月26日～3月3日	12月8日～1月20日	10月20日～12月2日	9月8日～10月11日	7月21日～9月2日	6月9日～7月16日	4月28日～6月3日	3月10日～4月22日	4月1日～10月11日 12月8日～3月31日
近年、仏像など文化財の盗難事件が多発しています。地域で守り継いできた文化財の盗難や故意の毀損は、人々の歴史を奪う卑劣な犯罪です。被害にあわないためにどうすればいいのか、「文化財の魅力発見」をキーワードに、展示を通じて考えます。	鎌倉時代の熊野には、小山氏と安宅氏という二つの大きな水軍があらわれます。この企画展では、熊野の水軍領主である小山氏にかかわる古文書から、鎌倉時代から江戸時代にかけて活躍した熊野水軍の歴史を紹介します。	平成22年8月、和歌の浦は国の名勝に指定されました。和歌の浦は平安時代から景勝地として有名で、近世には浅野氏や徳川氏が霊地・名所として整備・保護しています。この企画展では、近世・近代の和歌の浦を描いた作品から、和歌の浦の歴史を紹介します。	高野山の宗教活動を支えた高野山麓の人々の信仰のありかたは、仏像や神像、仮面、祭礼、行事など、さまざまな祈りのかたちとして今日に伝わっています。そうした祈りの心を文化財を通じて浮かび上げさせ、世界遺産・高野山とその文化圏の知られざる新たな魅力に迫ります。	一八九〇（明治23）年に、串本町大島沖でトルコの軍艦・エルトゥールル号は台風により遭難しました。近年の水中発掘調査によりエルトゥールル号から引き揚げられた遺物を展示するとともに、水中考古学に関わる様々な活動を紹介します。	和歌山には、西行や空海などたくさんのお名人がいました。また、熊野や高野山、道成寺など由緒の古い寺社もたくさんあります。この企画展では、和歌山ゆかりの寺社、有名人名につわる絵入りの物語を紹介します。	文化財は、たいてい箱や包みなどに入れられて収納されています。文化財が現在まで残されてきた背景には、こうした梱包や収納の方法に、さまざまな工夫や智慧がいかされてきたからです。この企画展では、文化財の多様な収納法や、その意義について紹介します。	県内に残る文化財から過去の地震・津波・洪水の災害の歴史を紹介します。同時に、昨年9月の台風12号によって被災した文化財のレスキュー活動を例に、近い将来起こるとされる南海地震などの災害に対して、地域の文化財の保全のあり方を考えます。	鎌倉時代～江戸時代におけるきのくにの村々は、隣村や領主、自然と闘っていました。実際に戦闘におよぶ場合もあれば、裁判などで争う場合もありました。この企画展では、古文書や絵図を中心にして、当時のたくましく自立したきのくにの村人の姿を紹介します。	三万年にわたるきのくに～和歌山県の歴史を、人々の生活と文化を主軸として、わかりやすく展示します。特別展「高野山麓 祈りのかたち」の開催期間中は、常設展示を行っておりませんので、ご了承ください。

お知らせ

◆博物館では、主要な作品をイヤホン式ガイド機で解説する音声ガイドをご提供しています（一般二〇〇円、高校生以下二〇〇円）。常設展については、上級コース・英語版もあります。

◆博物館では、学校行事での利用はもちろん、職場体験やミュージアムボランティア・教員研修など、学校と連携した教育・普及活動にも取り組んでいます。詳しくは当館学芸課までお問い合わせ下さい。またホームページにも案内を掲載しています。

URL <http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>

和歌山県立近代美術館(博物館となり)の展覧会

人間と自然の美術	なつやすみの美術館2
生誕120年記念 田中恭吉展	生誕120年記念 川口軌外の歩み展
4月14日～6月3日	11月10日～1月14日
生誕120年記念 卓上印刷器からはじまったアート	生誕120年記念 川口軌外の歩み展
2月9日～3月24日	11月10日～1月14日

※このほかコレクション展が通年で開催されます。

博物館の利用案内

開館時間 午前9時30分～午後5時（入館は閉館の30分前まで）
休館日 月曜日（月曜日が祝祭日の場合は次の平日）、年末・年始
展示替えにともなう臨時休館する場合があります。詳しくは博物館までお問い合わせください。

駐車場	来館者	来館者以外
1時間まで	200円	300円
以後30分ごと	100円	100円

※大型バスをご利用の場合はお問い合わせ下さい。

入館料

〈災害と文化財〉 〈エルトゥールル号の記憶〉	〈高野山麓 祈りのかたち〉	〈常設展・企画展〉
一般 大学生	一般 大学生	一般 大学生
個人 500円 300円	個人 800円 500円	個人 280円 170円
団体 400円 250円	団体 650円 400円	団体 220円 140円

※高校生以下、65歳以上、障害者の方、県内に在学中の外国人留学生・就学生の方は無料です。
※団体申込みは、和歌山県電子申請システム (<https://www.e-tetsuzuki99.com/eap-jportal/wakayama/>) からでも申し込みできます。必要事項を記入のうえ、お申し込み下さい。
※企画展の展示替え期間中は常設展示のみとなります。

和歌山県立博物館友の会

平成24年度会員募集

友の会では、バスツアー、書籍の割引販売などの事業を行っています。
入会のお申し込み・お問い合わせは 友の会事務局 (TEL.073-436-8670)まで。

交通



JR和歌山駅または南海和歌山市駅から「県庁前」(バス停)下車、徒歩2分

和歌山県立博物館 博物館だより 第17号

発行日 平成24年(2012)3月20日
編集 和歌山県立博物館
〒640-8137 和歌山市吹上一丁目4番14号
TEL(073)436-8670
<http://www.hakubutu.wakayama-c.ed.jp>